

平成27年7月20日～7月26日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について
（お知らせ）（平成27年度第11報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について情報提供をしております。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. 先週（7月20日～7月26日）の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上（危険）の時間数（168時間中）

1. 石垣島（沖縄県）	19時間
2. 熊谷（埼玉県）	17時間
3. 東京（東京都）	15時間
4. 秩父（埼玉県）	13時間
4. つくば（茨城県）	13時間
4. 久米島（沖縄県）	13時間

<参考>全国9都市の観測地点

札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	15時間
名古屋（愛知県）	1時間
大阪（大阪府）	0時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	2時間
鹿児島（鹿児島県）	0時間

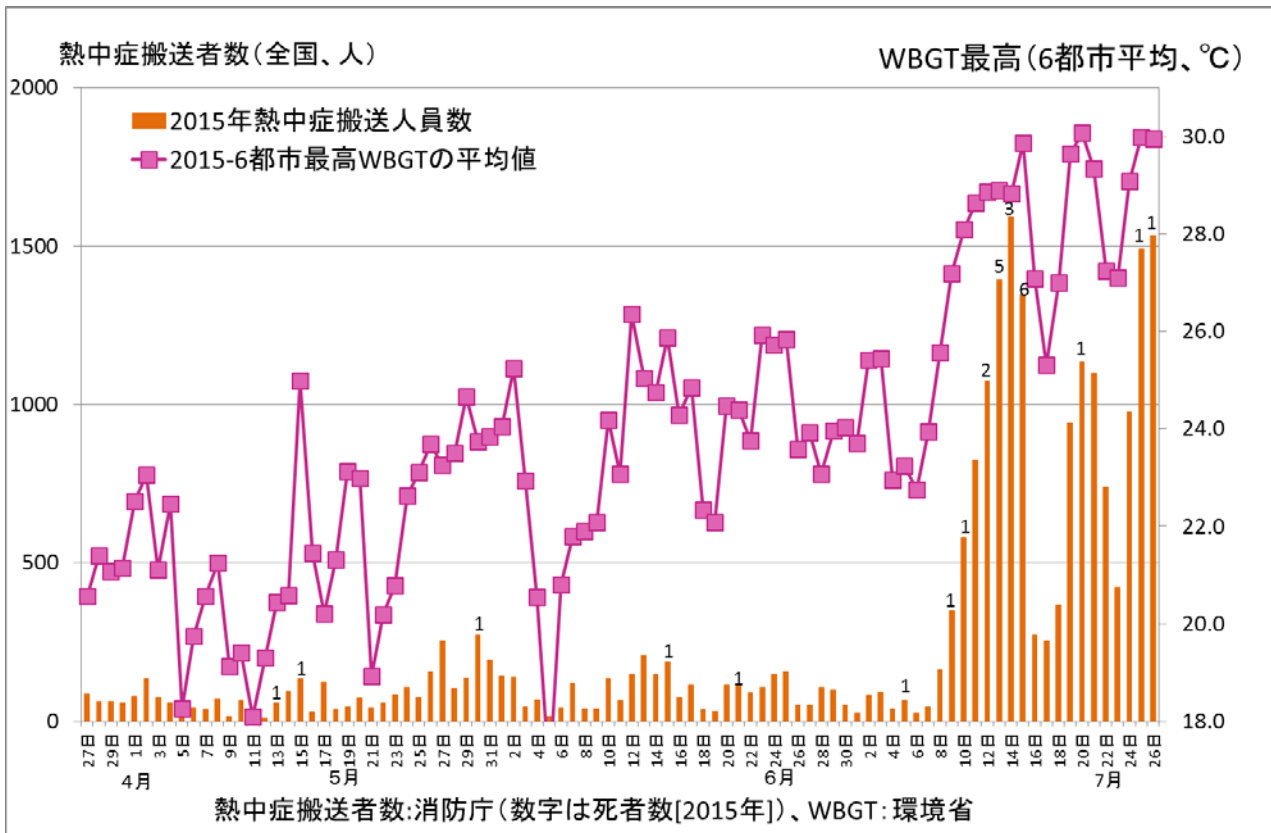
（注1）暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

（注2）暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、石垣島の19時間が最多でこの時間数は先週より多く、また153地点のうち、暑さ指数31℃以上となったのは48地点と多くなりました。

なお、暑さ指数31℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数（全国）との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



○6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月20日～7月26日までの期間中は30°Cを超える地点も現れ、期間中の22日、23日を除いて28°Cを超えています。消防庁発表の速報によると、熱中症による救急搬送者数は、暑さ指数の低かった上記2日間を除くと1,000名前後と極めて多い水準で推移し、特に26日には1,534名と、先週に続き一日あたり1,500名を超えました。1週間の合計では7,392名と、今年になって最多となっています。

○全国的に高温傾向となっています。東北から南西諸島の48地点で、昼間の日最高暑さ指数(WBGT)が熱中症の危険度の「危険」を示す31°Cを超えました。これは今年になって最も多い地点数となっています。さらに、北海道を含めて、全国的に多くの地点で「嚴重警戒」を示す同28°Cを越し、広い範囲で熱中症に嚴重な警戒が必要な状態になっています。

○気象庁発表(7月29日11時時点)の週間天気予報では、「最高気温・最低気温ともに、全国的に平年並か平年より高い所が多く、平年よりかなり高い所もあるでしょう。」とされており、地域によっては最高気温が35°Cを上回ると予想している日も多くあります。

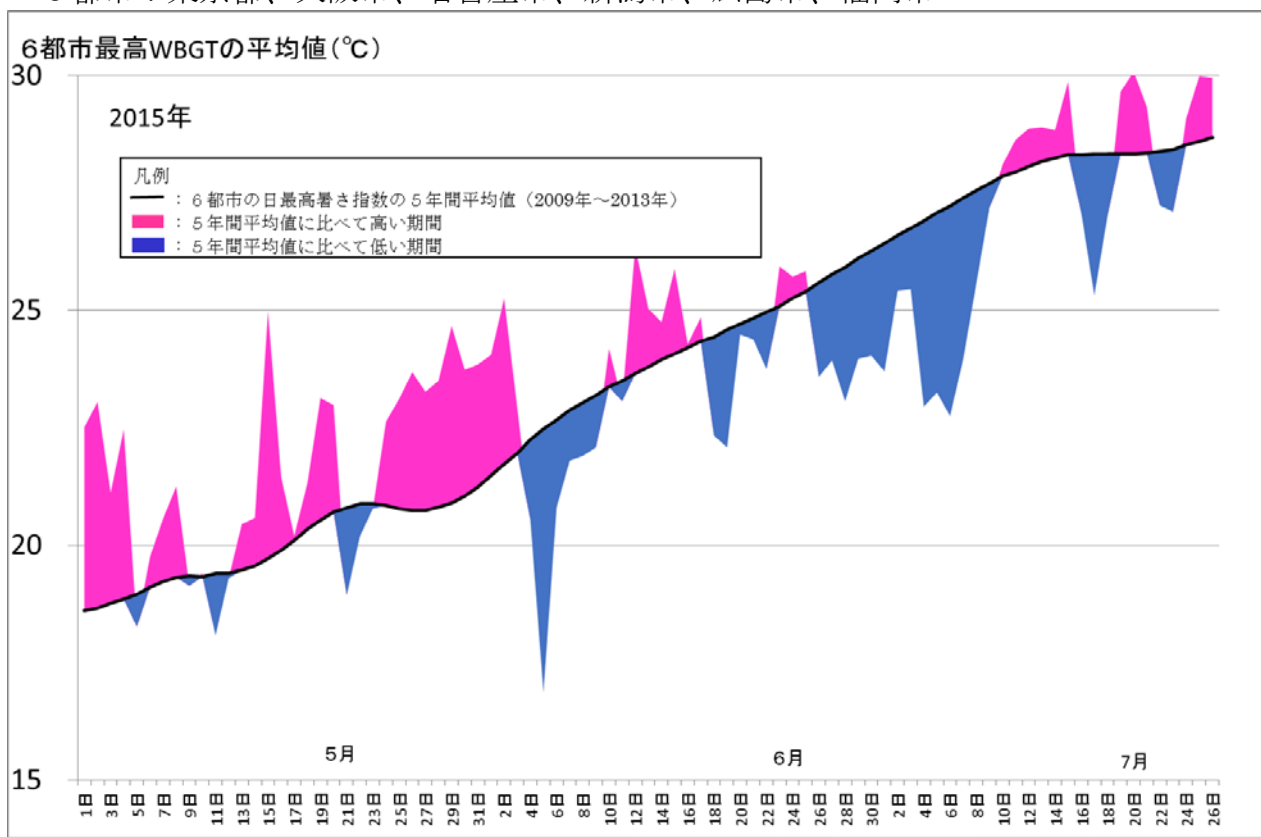
○全国的にかなりの高温になっていますが、今後も晴天の日にはかなりの高温が見込まれます。このため、熱中症に嚴重な警戒が必要です。不要不急の外出、作業を控えること、室内では無理をせずエアコンを使うこと、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理に十分に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

4. 2015年の6都市の暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



今年の6都市平均の日最高暑さ指数（WBGT）は、5月全般と7月中旬以降、平年を上回って、最近では30°C程度の日数が多くなっています。

7月中旬以降、本格的な高温の状況で、熱中症搬送者数が1,000名を超え、死者も記録されています。日中だけでなく、夜間も熱中症を発症しやすい状況となっていますので、十分な暑さ対策を心がけてください。

（注）この項（4項）は、平均を大きく上回る高温が記録されたときに追加してお知らせします。

